改めて痛感した

小ぶりなFWって何て扱いやすいことか

試打・解説
平野義裕

東京・スイング碑文谷内の「クールクラブス」のカリスマフィッター。ヘッドとシャフトの性能差を知り尽くしている

FW いろんな場面で使いたい人にもってこい!

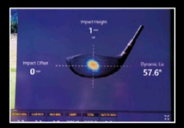
FWは上級者になるほどいろんな場面で使いたいもの。小ぶりであり飛距離性能も高いこのヘッドは実戦でかなり威力を発揮するはず

●FW試打データ

	ヘッド速度	初速	ミート率	打ち出し角	スピン量	飛距離(TOTAL)
後方6g	41.7 m/s	61.8 m/s	1.48	9.7度	3256 rpm	237.6 Y

	ヘッド速度	初速	ミート率	打ち出し角	スピン量	飛距離(TOTAL)
前方6g	41.5 m/s	62.2 m/s	1.50	8.8度	2883 rpm	242.3 Y

各3球の平均。特筆すべきはそのいずれも距離、方向のブレが非常に少ないこと。確実に狙った距離を打てるFWに仕上がっている



小ぶりなことで集中力が増して芯しか食わない!

UT 目標への“合わせやすさ”これはピカイチだ

ヘッドデザインの妙で、とてもボールに集中しやすい。こちらも飛距離性能が高く、また弾道も高い。グリーンを積極的に狙えるUTだ

●UT試打データ

	ヘッド速度	初速	ミート率	打ち出し角	スピン量	飛距離(TOTAL)
後方6g	38.9 m/s	58.2 m/s	1.49	14.1度	3689 rpm	218.3 Y

	ヘッド速度	初速	ミート率	打ち出し角	スピン量	飛距離(TOTAL)
前方6g	39.6 m/s	59.3 m/s	1.50	12.9度	3708 rpm	222.9 Y

UT（21度）でありながらミート率1.50を記録。前重心のほうがより強い弾道になるのはFWと同様の傾向

『TM-X』という200ヤードクラブを発表。トレードマークである馬蹄のようなキャビティソールはアルミで覆われ、なかには振動吸収のシートを搭載。またクラウンにはカーボンを採用し、そこで得た余剰重量を多くの脱着式のウェイトに充てた。徹底した低重心構造、そして自在なフィッティングを可能にしている。

「正直ヘッドは小さいです。特にFWは。でも不思議と芯にしか当たらないんです。ミート率やボール初速も非常に高く、本来の飛距離性能そのものも高いです」（平野）

また上級者が求める操作性もピカイチだという。

「本当に意のまま操れる。意識するだけで上下左右に〝適度に〟コントロールできるんです。小ぶりなヘッドの優位性を、再認識させてくれるFWとUTです」（平野）

フェースは反発性能が高い素材を採用

ボディはチタン（3W）

マルチマテリアルを極めた

ここまで手の込んだFW、UTは見たことがない

カーボンクラウンを採用

後方へのストレッチ度合いは少なくコンパクトに、またカーボンクラウンによって低重心に設計されている3Wは、ボディにチタンを採用しより反発性能を高めている

FWにはアジャスタブル機能を搭載

フェースはブラックサテンIPで精悍なイメージ

カーボンクラウンにより、低重心化と多くの余剰重量を生み出している。またアイアンと同じチップ径（シャフト先端の太さ）を採用し、ヘッド挙動の安定を図っている

クセのなさも追求

ヘッド速度が速めでも安心して振り切れる

コンパクトなヘッドに合う専用設計シャフト（52㌘:S）。やや重く硬めの設定で、アベレージから速めのヘッド速度の上級者にも対応

ROYAL COLLECTION

※スクリューウェイトは他にソール部に10、8、4g、トウ&ヒールに3gが用意されている（別売オプション）

あの

今度のモデルはプロが放っておかないな……

強い「ロイコレ」が帰ってきた!

“200ヤードクラブ”の代表格として名を馳せた「ロイコレ」。その新作は、飛びのテクノロジーが凝縮されている一方で、時代に流されないヘッドサイズや形状で、アスリートに向けた骨太な仕上がりだ。ロイコレらしさ溢れる最新FW、UTに迫る

写真／岩村一男、有原裕晶　協力／クールクラブス

月刊ゴルフダイジェスト 特別編集 GOLF DIGEST ギアラボ!

FW&UTで大事なのは操ることだ

かつてプロやトップアマの試合では、組の誰かのバッグに必ずと言っていいほど入っていたロイヤルコレクションのFWやUT。その精悍なルックスと力強い弾道に憧れるゴルファーが続出だった。

そんなロイコレが新たに

ROYAL COLLECTION

TM-X

TM-X FAIRWAY WOOD

抜けの良さを追求した船底形ソール

FWは船底型のソールを採用。構える手の位置を選ばず、またさまざまなライに的確に対応。ラフでの抜けも考慮した実戦的なソール

通常は後方に6g 前方に2g

アルミプレートの下には振動吸収シート（アスナーシート）を装着

トウとヒールに1gずつ

スクリューウェイトで重心やバランスを調整できる

TM-X UTILITY

トウ側を高く保った構えやすい形状

トウの上側が高く角ばっており、アイアン的な雰囲気も漂う。この形により目標に対して非常にスクエアに構えやすくなっている

ロイコレヒストリー

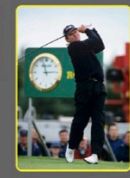
プロ、上級者に超人気だった

キャビティソールが特徴のスーパーCV B.B.D

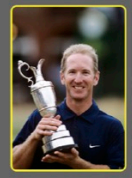
1992年 ロイヤルコレクション創設

1995年 日本アマチュア選手権で圧倒的な使用率を得る

2001年 ニック・プライスとクラブ契約



2001年 FWを使用したデビッド・デュバルが全英オープン制覇



2004年 トッド・ハミルトンがUT（T-d）を使い全英オープンで優勝

2007年 すべての国内メジャー大会でFW使用率No.1に

2010年 ツアーVSが発表後の試合で使用率No.1を獲得

※海外選手は主に「SONARTEC」ブランドを使用